

● 今月号の読みどころ

4面 | 10/1～大型・持ち込みごみの利用が便利に  
5面 | マンガ・アニメの祭典「京まふ」開催！  
6面 | 伝統産業ミュージアムがより魅力的に！  
8・9面 | 生活文化に親しむ秋

● 今月号のプレゼント  
クグロフ 7面



## 2022年度決算概況



### 今回の決算のポイント



- ① 市民の皆さまのご理解・ご協力により、  
22年ぶりに赤字から黒字に

2021年度決算  
85億円の赤字

162億円の収支改善

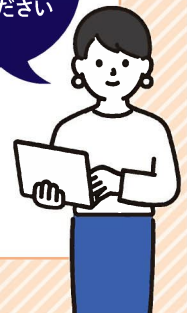
2022年度決算  
77億円の黒字

- ② 今後の行財政運営では  
将来に負担を残さない改革をたゆまず実施  
→ 財政難克服への道筋をより確かなものに

- 過去負債505億円は、できるだけ早く返済  
↳ 3面で解説
- 企業立地をはじめ、市民の皆さまの豊かさにつながる  
都市の成長戦略を加速させ、足腰の強い財政基盤のさらなる強化・安定
- 子育て支援や若者・子育て世帯の住む場所・働く場所の創出など  
人口減少対策につながる取り組みを推進

分かりやすく伝えます

詳細は  
2・3面を  
ご覧ください



9月以降に新型コロナワクチン  
秋開始接種が始まります



接種開始日や対象、開場などの詳細は、  
随時HPからご確認ください。



### 持続可能な行政の確立に向けて大きく前進

# 2022年度 決算概況

※金額は概数

将来にわたって市民の皆さまの暮らしを守るため、行政財政改革に取り組み京都府。今回は、昨年度の決算の内容と、今後の行政財政運営の通筋などについてお伝えします。

問合せ 財政室 TEL222-3288 FAX222-3283



### 財政用語メモ

#### 特別の財源対策と過去負債

#### 【特別の財源対策】

公債償還基金(将来の借金返済に充てる積立金)の取り崩しなどにより、赤字補填を行うこと。これは、将来世代への負担の先送りにつながる例外的手法。

#### 【過去負債】

赤字補填のために、公債償還基金からこれまで取り崩してきたもの。2021年度に187億円を返済し、今後返済が必要な総額は505億円。

過去負債は2038年(15年後)をめどに、高齢化がピークを迎えるまでのできる限り早期に返済。将来世代の負担を軽減します。

### 一般会計

#### ＜収支の全体像＞



#### ポイント

- ✓ 21年ぶりに「特別の財政対策」から脱却。長年の課題であった単年度の赤字を解消
- ✓ 前年度比162億円の収支改善

Q 77億円の黒字はどのように使われるの？

A 京都の持続的な発展に向け、「今」と「未来」のために活用していきます。

- 過去負債505億円の返済
- 若者・子育て世代の定住・移住につながる都市の成長戦略の推進、子育て支援
- 物価高騰への対応

### 歳入の状況

市税や地方交付税などの収入が含まれる一般財源収入は、担税力の強化により、過去2番目に大きい規模となりました。

#### 【収入を増やすための主な取り組み】

##### ●市税収入(前年度比99億円増)

市民生活・事業者の下支えや都市の成長戦略の推進などにより、市税収入は過去最高に。

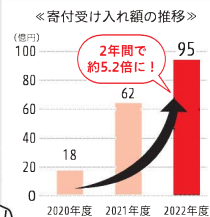
##### ●ふるさと納税寄付金(前年度比33億円増)

伝統産業の振興等を踏まえ、京都ならではの返礼品の赤美などを実施。寄付受け入れ額は大都市(政令市)トップに。

#### ＜主な税収増加の要因＞

- 個人市民税(前年度比25億円増)  
要因) 給与所得の伸びによる増
- 固定資産税(前年度比59億円増)  
要因) 地価上昇に伴う調整措置による増
- 宿泊税(前年度比14億円増)  
要因) 宿泊者数の回復に伴う増

また、市税徴収率は99.1%と過去最高となりました。



### 歳出の状況

「くらしに安心、まちに活力、策を推進。また、さまざまな見直しを行い、支出の抑制に努めました。

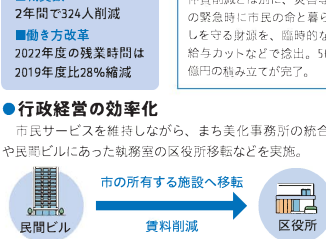
#### 【支出を減らすための主な取り組み】

##### ●人件費の削減

市民の命と暮らしを守るために必要な体制を確保しながら、職員数の削減や働き方改革を徹底。

##### ●行政経営の効率化

市民サービスを維持しながら、まち美化事務所の統合や民間ビルにあった執務室の区役所移転などを実施。



##### ●事業の総点検・見直し

社会情勢の変化に応じて、補助金・イベントの見直しや使用料・手数料の適正化などを実施。

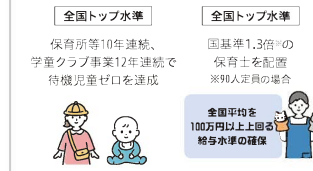
##### ●独自施策の再構築

敬老乗車証制度をはじめとする市独自の施策を、将来にわたり維持するために見直しを実施。

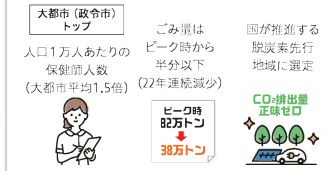
市民の皆さまのご理解・ご協力により見直した財源は、主にこれらの政策に使われています。



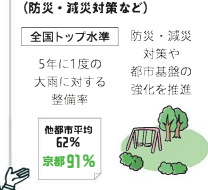
### 社会福祉費(福祉・子育てなど) 3382億円



### 保健衛生費(健康増進・ごみ処理など) 666億円



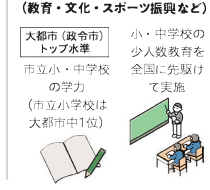
### 都市建設費(防災・減災対策など) 686億円



### 産業経済費 1636億円(中小企業振興など)



### 教育文化費 1345億円(教育・文化・スポーツ振興など)



### ここが聞きたい! 京都市財政のあれこれ

#### Q 京都市の財政状況は改善されたの?

#### A 大きく改善されましたが、今後も油断はできません。

特別の財源対策なしなど、2022年度で財政状況は大きく改善し、単年度の決算では、赤字を解消することができました。一方で、

- 過去負債505億円の返済が必要であること
- 高齢化による社会福祉関連経費の増加が見込まれること
- 景気変動の懸念があること

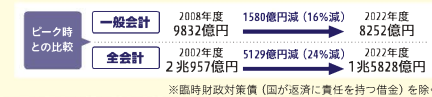
などから、引き続き、持続可能な行政運営に向けた取り組みが重要です。

#### Q 市の借金についてはどうなっているの?

#### A 市債(市の借金)の残高は着実に減らしています。

2022年度の一般会計での市債残高は8252億円(前年度比168億円減)。また、全会計では、1兆5828億円(前年度比281億円減)となっています。

◎一般会計と特別会計、公営企業会計を合わせたもの

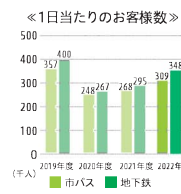


### 公営企業会計

公営企業は、お客さまからの料金収入を基に運営する「独立採算制」が原則であることから、一般会計とは別会計になるため、分けて記載します。

#### 市バス・地下鉄事業のポイント

- 収支は、両事業ともに3年連続の赤字。お客さま数は、コロナ禍前まで戻りきれないが、回復傾向。
  - 地下鉄は、2年前倒しで経営健全化団体から脱却へ。国の支援などもあり運営改善を回遊。
  - 市バスは、燃料費や人件費の高騰など不透明な要素もあり、運営改善を見込まざるを得ない状況。
- 引き続き、経営ビジョンに基づく経営健全化の取り組みを推進。



#### 上下水道事業のポイント

- 人件費の削減など、経営プランを上回る経費削減を進め、収支は黒字を確保。
  - コロナの影響により、経営プランに比べ、使用水量は減少し、料金・使用料収入も減収が懸念。
- ライフラインを守るため、効率的な事業運営を進めるとともに、老朽化した配水管の更新や雨水幹線の整備などを積極的に推進。

2022年度の決算概況の詳細はHPで紹介しています。ぜひご覧ください。



●夏休み明けは、通勤通学に乗じた痴漢や盗撮が多発する恐れがあります。被害を見たらすぐに通報を!

